

2025 年 1 月 24 日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

2024 年度日本PR大賞が決定！

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

小田 凱人 氏

(プロ車いすテニス選手)

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

一般社団法人まちライブラリー

(「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館)

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：山口恭正、所在地：東京都港区）はこのほど、2024 年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」にプロ車いすテニス選手の小田 凱人氏を、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に一般社団法人まちライブラリー（「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館）をそれぞれ選出・決定し、1月23日（木）開催の「新春PRフォーラム 2025」において表彰式を行いました。



2024 年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

小田 凱人氏 (プロ車いすテニス選手)

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」としてパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には、持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループを対象に表彰するものです。

1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

両賞の選考・授賞理由は以下のとおりです。

<2024年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 小田 凱人氏（プロ車いすテニス選手）

■授賞理由

プロ車いすテニスプレイヤー。パリ・パラリンピックの金メダリスト。2023年6月の全仏オープンでは史上最年少優勝を果たし、ITF 車いすテニスランキング史上最年少1位（17歳35日）を達成。2024年も全豪オープン、全仏オープンの2つのグランドスラムタイトルを獲得し、車いすテニスならびにパラスポーツの顔となった。また、自身がプロデュースした国際テニス連盟公認の車いすテニスの国際大会「岐阜オープン」では日本初となるジュニアのための大会も開催。年齢を問わず、障害のある人もそうでない人も、車いすテニスを当たり前を楽しむ世界を作るために尽力している。このような競技と活動を通じて、常に積極的な発言と情報発信につとめ、車いすテニスの普及と、その先にあるダイバーシティ社会の実現に向けて大きく貢献している点が、パブリックリレーションズの観点から高く評価される。

■受賞メッセージ ※動画 <https://prsj.or.jp/personcitizen/2024comments/>

車いすテニスの小田凱人です。このたびは、日本PR大賞2024パーソン・オブ・ザ・イヤーに選出していただき、誠にありがとうございます。

今年はメディアに数多く出ましたし、パラリンピックで悲願のずっと取りたかった金メダルを取ることができました。

そのほかにも本を出したり、いろんな活動をしてきましたが、そういう僕がこうしていきたい、ああしていきたいということも評価いただいたことを本当に嬉しく思っています。

まだまだもっと活動の場を広げて、テニスコートに収まることなく、もっと自分らしさを表現していきたいと思っていますし、またこうやってこの賞をいただけるような頑張りをこれからもしていきたいと思っています。この度はありがとうございます。

■小田 凱人氏プロフィール

<https://www.tokai-rika.co.jp/trsports/players/tokitooda.html>

<2024年度 日本PR大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 一般社団法人まちライブラリー（「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館）



■授賞理由

まちライブラリーは、「本」を中心に緩やかに人と人が繋がる自然体のコミュニティで、本が単なる読み物ではなくコミュニケーションのツールとして機能し、地域のステークホルダーの結束を強める役割を果たしている。提唱者は森ビル出身の礒井純充氏で2011年に開設。誰でもオーナーとして始めることができるため設置者は個人が6割を占め、現在はMUGF PARKをはじめ全国に1200か所以上に広がっている。パブリックリレーションズの観点で優れた取り組みであり、高く評価される。

■受賞メッセージ 代表理事 礒井純充氏

まちライブラリーは2011年に私自身の個人的な居場所づくりの一環としてスタートしました。この活動が全国に広がり、多くの皆様に支持されるようになったこと、また本日も東京近郊で活動しているまちライブラリーの仲間たちが集い、この賞を授与される喜びを共有できることを大変嬉しく思います。この活動を通して、巨大化する社会構造の中で疎外感を持ち始めている個々の人々が、再び自らの力やそれを支える身近な仲間を再認識するための手段として広がってほしいというのが私の願いです。今回の受賞を励みにさらに私自身もやれることをやり、やりたい人の背中を押し続けていく所存です。この活動を支えてくださっている多くの仲間やスタッフの皆様に深く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

■まちライブラリーとは

まちライブラリーは、いつでも誰でもどこでも始めることができる、「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館。個人や団体が、自宅や店舗、病院、学校などの一角に本棚を設置して本の貸し借りなどを行う場として全国に広がり、今では図書館や公共施設、商業施設、サービス付き高齢者住宅などにも広がっている。多様な人たちがそれぞれの想いをもって展開する活動になっている。

<https://machi-library.org/>

※日本PR大賞とは

日本PR大賞は、日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）の公益事業として、パブリックリレーションズの普及・浸透のために、「企業と社会の共生」、「公益の実現」などに貢献した人・組織を表彰する制度である。第1回は1998年度。

<https://prsj.or.jp/personcitizen/>

<ご参考>

■選考方法

日本パブリックリレーションズ協会会員および一般への公募により受賞候補者・団体の推薦を得て、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを作成し、協会会員および有識者・学識経験者で構成された選考委員会での協議を経て、顕彰委員会で決定。

※2024年度 選考委員会 全7名 ※順不同

(PRSJ 会員)

TOPPAN ホールディングス(株)

佐藤 圭一 氏(顕彰委員長)

パナソニック オペレーショナルエクセレンス(株)

齋藤 博海 氏

(株)電通 PR コンサルティング/企業広報戦略研究所

阪井 完二 氏

キャンドルウィック(株)

シルベスタ 典子 氏

(有識者)

月刊「広報会議」編集長

浦野 有代 氏

(学識経験者)

日本広報学会 理事長

柴山 慎一 氏

■推薦基準

- ◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」
経済、文化、スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最も活躍した人
- ◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPO等含む）

■パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和6年度（2023年度）

YOASOBI 氏（音楽ユニット）

令和5年度（2022年度）

羽生 結弦氏（プロスケーター）

令和4年度（2021年度）

根本 かおる氏（国連広報センター所長）

令和3年度（2020年度）

池江璃花子氏（競泳選手）

令和2年度（2019年度）

ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

平成30年度（2018年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成29年度（2017年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成28年度（2016年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成27年度（2015年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成26年度（2014年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成25年度（2013年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR推進部・パラリンピアン）

平成24年度（2012年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成23年度（2011年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成22年度（2010年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成 21 年度 (2009 年度) (この年までは「日本 P R 大賞」)

辻井 いつ子氏 (ピアニスト 辻井 伸行氏の母親)

平成 20 年度 (2008 年度)

該当者なし

平成 19 年度 (2007 年度)

東国原 英夫氏 (宮崎県知事)

平成 18 年度 (2006 年度)

川島 隆太氏 (東北大学 加齢医学研究所教授)

平成 17 年度 (2005 年度)

野口 聡一氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士)

平成 16 年度 (2004 年度)

古田 敦也氏 (日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手)

特別賞 故 伴 信雄氏 (日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長)

平成 15 年度 (2003 年度)

北川 正恭氏 (早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事)

平成 14 年度 (2002 年度)

川淵 三郎氏 (前日本プロサッカーリーグ チェアマン)

特別賞 茂木 友三郎氏 (日本醤油協会会長、醤油 P R 協議会会長)

平成 13 年度 (2001 年度)

野口 健氏 (登山家)

平成 12 年度 (2000 年度)

柳井 正氏 (株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長)

平成 11 年度 (1999 年度)

乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏 (日産自動車株式会社 C O O)

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏 (プロ野球選手 (西武ライオンズ))

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

特別賞 福川 伸次氏 (電通総研所長)

平成 10 年度 (1998 年度)

中坊 公平氏 (弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長)

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏（株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長）

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI（元大関小錦・タレント）

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏（宇宙飛行士・医師）

特別賞 猪狩 誠也氏（東京経済大学 教授）

■シチズン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和6年度（2023年度）

Paix²（ぺぺ）

令和5年度（2022年度）

内閣府承認NPO法人全国てらこやネットワーク

令和4年度（2021年度）

COVID-19 多言語支援プロジェクト

令和3年度（2020年度）

一般社団法人「ダイアログ・ジャパン・ソサエティ」

令和2年度（2019年度）

一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

平成30年度（2018年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成29年度（2017年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成28年度（2016年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成27年度（2015年度）

いすみ鉄道株式会社

平成26年度（2014年度）

NPO法人富岡製糸場を愛する会

平成25年度（2013年度）

NPO法人本屋大賞実行委員会

平成24年度（2012年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRS J）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F
TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147